

申請項目1

\*会員数について

「新体制青年部になって10年間会員数三桁維持を目指そう！」を実現。

令和3年度会員数 108名                      令和4年度会員数 111名（前年比+3名）

会員数の内訳(令和3年度)

108名の内 継続会員100名、卒業3名、退会会員5名

会員数の内訳(令和4年度)

111名の内 前年度よりの継続会員100名、新入会員11名 → 退会者 < 新入会員

\*退会理由について

この度は退会者全員にその理由を確認した。

5名全員の退会理由が県外への転勤であった。

理由無き退会者ゼロは、米子青年部には初めての快挙である。

申請項目4

米子青年部では会員への連絡担当を役員で行ってきたが、コロナ禍で活動が規制されたのを機に一部の社中(田原社中、渡邊社中、青砥社中、田中社中、坪倉社中)の連絡担当を先生に変更。

それにより、退会理由の把握、会員への継続依頼、会費徴収もスムーズに出来た。理由無き退会者ゼロの快挙も先生の協力によるものである。

青年部部長→青年部育成委員→連絡担当の先生→先生から社中の青年部会員へ

先生は青年部が何を考え、何をしようとしているのかその活動内容を理解できる  
→ 先生はお弟子さんに入会や継続を推奨できる

見ず知らずの青年部役員から各会員の継続確認をするより、身近な先生から確認をしてもらう方が継続をしてもらえる確立は高くなる。実際に高くなった。

併せて年会費の取りまとめも先生にしてもらった。

そのお蔭で会員の継続確認、会費納入もスムーズに行えた。

申請項目7

\*新しいリーフレット(画像：左)を作成し、呉服店、茶道具店などに常備させてもらう。

\*新入会専用の青年部QRコードを作成。

\*今だからこそ、会員ひとりひとりとの繋がりを深めるべく不定期に「部長の気まぐれ『野に花だより』(画像：右)を作成、全会員に送付。

『野に花だより』は平野総括幹事の「の」、西重副部長の「に」、原田の「は」、長田副部長の「な」から名前を決定。

総本部からの連絡事項はもとより、幅広い会員層に対応すべく利休百首や掛け物のクイズ、青年部紹介動画閲覧案内、会員継続のお知らせ等、楽しくかわいいイラストも沢山使用し作成した。

令和3年度6回発行

翌年も発行することに決定  
令和4年度5回発行(予定)



\* 初めてのオンライン茶会

2020年は中止した「歳末たすけあい茶会」を2021年はオンラインで開催。カメラを数台準備し、席中にある感覚を味わってもらえるようにそれぞれの位置に取り付け撮影をした。場面切り替えをして臨場感を持ってもらえるよう努力した。オンラインのリハーサルは前日に実施。育成委員の先生方にも立ち会って戴く。茶道はやはり見る、味わう、香る、聴く、触れる等の五感があればこそとを感じる。会しての開催が難しい場合には試行錯誤しながらオンラインでの開催もやむを得ないが、一日も早くいつも通りの茶会を開催したいと切に願う。

\* ネット会員入会への取り組みについて

現在審議、検討中

勧誘に挑戦 → 一部の会員に依頼

その結果 → 短い期間で何百人にも勧誘が出来ることが判明

見えてきたこと → ママ友、職場、趣味などのSNSで繋がっている

グループ単位でアンケートをとってみてはどうか。

アンケートの内容は？

(例)「茶道について」の印象や興味はあるか等

敷居が高いと思われがちな「茶道」を身近なものとして感じてもらい青年部に興味を持ってもらえるように青年部動画の閲覧を奨めたりするのはどうか。

最終的にはそれぞれ地元の青年部に会員として入会してもらうことを目的とするなら、初めから青年部に興味をもってもらえるような活動が必要となる。

ママ友は魅力的なグループだと思う。

子供も一緒に会員に出来る。ママ友同士での参加は孤独感もなく参加しやすい。

以上

米子青年部では、青年部新体制から10年間プロジェクトを行って来た。

今期はその集大成であり、来期からの新たな取り組みを考える時期でもあった。

茶道や青年部活動と真摯に向き合う時間や親先生とじっくりと話す時間が持てた。

コロナ禍で活動による会員同士の交流ができなかったのは残念だったが、考えてみると悪いことばかりではなかった。

時代が変わっても、伝統文化である茶道は決して揺るぎなくむしろますます必要なものであると感じることが出来た。

そのことをまだ茶道を知らない人に伝え、茶道人を増やしていきたいと思う。

デジタルの世の中でもアナログの良さを

米子青年部の妄想はまだまだ続く。